

セキュア アクセス サービス エッジ

セキュリティ実務者からの教訓とアドバイス

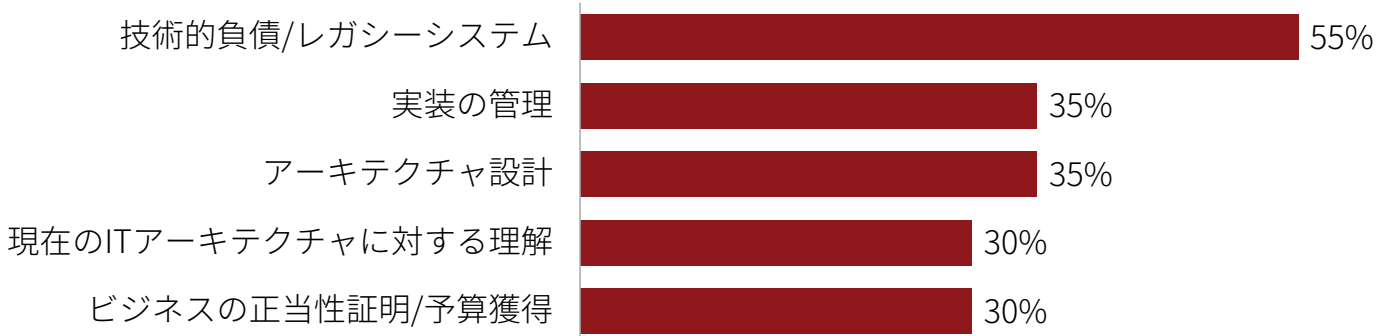
キーポイント

S&P グローバル・マーケット・インテリジェンスは、2022年後半から2023年前半にかけて、欧州とアジア太平洋地域の回答者を対象にセキュア アクセス サービス エッジ (SASE) のカスタム調査プロジェクトを実施しました。調査は、SASEの主要な意思決定基準、メリットの分野、導入モデル、解決すべき課題、教訓を判定することに重点が置かれました。SASEシリーズの最初のレポートでは、潜在的なビジネスと技術的メリットが説明されました。このレポートでは、実際のSASEの導入から得られた障害と教訓について取り上げます。

このシリーズの最初のBusiness Impact Briefが示しているように、企業団体等はSASEの導入から得られた価値を認識しています。しかし、SASEへの移行は、複数の組織グループと技術層にまたがる複雑なプロジェクトであるため、メリット達成に多大な労力を要します。この調査によると、大規模な組織は、IT資産の複雑化（「技術的負債」）と、SASEの技術的要件をサポートするために必要とされる、レガシーシステムの交換または更新における負担増のために、より一層の困難を強いられています。

回答者によると、組織はSASEの5つの主要な課題である、技術的負債とレガシーシステム、実装管理、アーキテクチャ設計、現在のITアーキテクチャの理解、ビジネスの正当性証明/予算獲得に苦戦を強いられています。

SASEの解決すべき課題となるトップ項目



Q. 以下は、SASE/ZTNAプロジェクトの潜在的または実際の障壁や課題のリストです。プロジェクト期間中に遭遇した、あるいは遭遇すると思われる障壁の上位3つを選んでください。

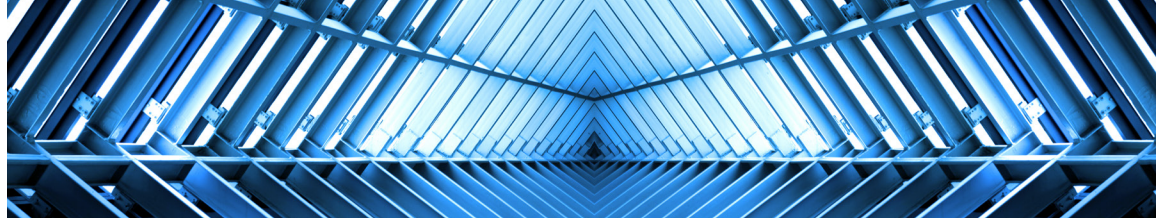
基準：仮想エグゼクティブディスカッションボードの全回答者 (n=20、APAC=10、ヨーロッパ=10)

出典：S&P グローバル・マーケット・インテリジェンスによるカスタムSASE調査、2023年3月

ビジネスインパクト

技術的負債とレガシーシステム 新技術をサポートするために更新を必要とするシステムの構成要素は、技術的負債であると言えます。具体的な例として、境界防御型が最先端であった時代に実装されたレガシー レイヤー 3 ファイアウォールの場合、ハイブリッド クラウド アーキテクチャやSASEをサポートするには更新が必要です。もうひとつの課題は、クラウドやSASEといった新技術に関するスタッフのスキルアップです。

調査に参加した、従業員1万人以上を抱える香港の保険会社のCISOは、技術的負債への対処について「どのようなアプリケーションが、どこで、いつ、どのようにネットワーク上で、内部と外部で、そしてさまざまなインフラ構成要素上で統合されているのか、さらにはこのファブリックの一部であるかもしれない横断的な技術（内部ファイアウォールルールなど）を明確に理解しなければなりません。- プロジェクト実装中にトラブルシューティングモードですべてをつなぎ合わせるのではなく、すべての側面を完全に理解するために前もって時間を投資する必要があります」と指摘しています。



実装の管理 SASEは、組織が実施する実装の中でも技術的に複雑なもの1つですが、実装が成功すればデジタル変革プロジェクトを成功させるための基礎を築くことができます。SASEの導入にはIT運用チーム、セキュリティチーム、およびSASEの実装によって影響を受けるビジネスラインのステークホルダーが関与します。複雑なシステムが多く、場所に分散しているため、大規模な組織は、通常、この分野でより多くの困難を抱えています。ここで重要なのは、達成することができるプロジェクトフェーズを考案し、プロジェクト全体の「成功」を証明できるよう、SASEの実装を設計することです。

別の調査に参加した、あるスウェーデンの医療機関のCIOは「実装管理することは、スタッフにとってかなりの負担となります。非現実的な数のロールアウト計画を立てないようにすべきです。また、無理をしたり、計画よりも早く実施しようとはなりません。スタッフへの負担が大きくなります」と述べています。

SASEのアーキテクチャ設計 SASEアーキテクチャの定義付けはプロジェクト全体の成功の鍵であり、また調査参加者の多くが述べているように、かなりの大仕事になる可能性があります。SASEには、5つの異なる技術層があり、何百もの依存関係や相互接続があるため、システムアーキテクチャを適切に設計する時間が必要となります。

英国を拠点とする従業員1万人以上の金融サービス会社のインフラと情報セキュリティの責任者はアーキテクチャ上の課題について「レガシーアプリケーションやサイロ化されたアーキテクチャが障害となっていました。レガシー技術がデジタル変革の障害となっており、技術とガバナンスの調和がとれていないのです...設計によってセキュリティを確保する必要があり...かなりの障害がありました」と述べました。

現在のITアーキテクチャに対する理解 多くの回答者が、自社のITアーキテクチャを完全に理解することを困難な作業だと感じています。そのためにはレガシーシステム、資産の位置、使用中のデータを詳細にマッピングする必要があります。幸いなことに、一部の組織は、デジタル変革プロジェクトの一環として、ソフトウェア部品表の作成や、システムアーキテクチャと依存関係の強固な文書化を必要とするコンプライアンスプロジェクトなど、すでにこのプロセスに着手しています。

香港にあるITサービス企業のクラウドセキュリティおよび技術リスク担当ディレクターは課題について「現在のネットワークアーキテクチャを理解し、組織全体に一貫した変更を加えることは、簡単なことのように聞こえるかもしれませんが、実際のところ、複数の国で事業を展開する大規模な組織の場合、至難の業にはかなりなりません。SASEに適した基盤を作るため、事前にアーキテクチャを正確に測定し、基本を確立してから行なう必要があるからです」と述べています。

ビジネスの正当性証明および予算獲得 ある回答者は最低限のビジネスの正当性証明しか要求されなかったと回答し、その一方で予算の承認を得るのに苦労したと述べた回答者もいました。どちらにしても緊急性は予算承認プロセスを加速する役割を果たしました。パンデミックによるリモートワーカーへの対応や、重大なセキュリティ上の欠点に対し、SASEが唯一の対応方法である場合、予算の確保は容易なものとなりました。

英国のあるデータサービス会社のCISOは、この問題を「予算編成の段階で全費用を見積もるのは本当に困難なことです。予算超過はほとんど避けられませんでした。私なら、予算を要求する前にもっと設計作業を行うか、設計フェーズをコストと結果に焦点を当てたビジネスケースに分割していたと思います」と述べました。

今後に向けて

SASEの技術が成熟するにつれ、この概要で述べたいくつかの課題は最小化されることでしょう。SASEは2019年に定義されましたが、ベンダーが市場に製品を提供するのは2020年以降からです。それ以来、SASEの技術スタックと導入手法、およびレガシーシステムとの統合はさらに成熟しています。また、ベンダーやサービスプロバイダーが実装を成功させ続けることにより、導入プロセスはよりシンプルで合理的なものになっていくでしょう。さらに、調査参加者の多くは、SASEに関する正しい専門知識を得ることが鍵であることから、経験豊富な第三者の活用が成功と失敗の分かれ目になると述べています。

verizon✓

私たちがこの調査を依頼したのは、企業が、ノイズを排除した、良い点悪い点双方を含む真実を把握できるようにするためです。企業が直面している課題と、SASEによって達成できるメリットの両方を理解することにより、弊社が提供するサービスを進化させることができるのです。弊社の経験豊富なネットワークセキュリティ コンサルタントは、戦略的アプローチや目標運用モデルの決定、継続的プロアクティブ管理の提供などを含む導入までのプロセスにおいてお客様をサポートします。弊社は、導入のリスクを回避し、より大きなメリットをより早く実現できるようお客様を支援いたします。

[EMEAホワイトペーパー](#)

[APAC ホワイトペーパー](#)